

茨城大学

キャンパス／茨城県水戸市、日立市、稲敷郡阿見町 教育方針／全学のディプロマ・ポリシー(学士課程)として、①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力、③課題解決能力・コミュニケーション力、④社会人としての姿勢、⑤地域活性化志向の5つの茨城大学型基盤学力を掲げる。これらの要素の達成度等について学生(各年次)・卒業生・企業等を対象とした調査を行い、その結果を日常的な教育改善に活かし、教育の質保証に努めている。学部／人文社会科学、教育、理、工、農 大学院／人文社会科学、教育学、理工学、農学 学生数／8,022人

コーオプ教育が特徴の新学環で実践力ある人材を育成

茨城大学は、2024年度に新たな学士課程「地域未来共創学環」を設置し、「ビジネスとデータサイエンスを中心とした分野・文理横断の学びを通じた地域課題の解決や新たな価値創出に挑戦する実践的な人材」を養成する。

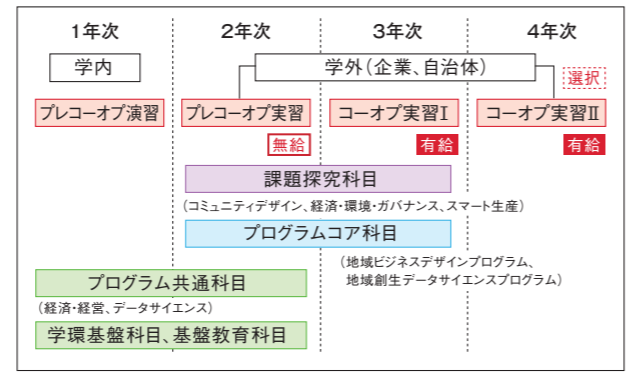
最大の特徴は、茨城県内の20の自治体、35の企業等*(卸売業、小売業、製造業、金融業、情報通信業、サービス業など)と協力した4年間にわたるコーオプ教育。国立大学では初の取り組みだ。企業研究等を行う1年次の「プレコーオプ演習」、約2週間の就労体験を行う2年次の「プレコーオプ実習」を経て、3年次の「コーオプ実習I」では、約3か月間、企業や自治体で給与を得ながら働き、大学で学んだ知識・能力を実社会で活用する。学生の希望と受け入れ先の条件が整えば、4年次に約2か月間、実践力をより高めるための「コーオプ実習II」を選択履修できる。

また、既存学部の垣根を超えて幅広い教員・授業科目を活用する学部等連係課程の制度を活用。人文社会科学部、工学部、農学部の3学部が連係し、各学部の授業科目や専任教員を活用してカリキュラムを編成する。学環の全学生は1・2年次にビジネスとデータサイエンスの基礎を学び、2年次には「地域

ビジネスデザインプログラム」「地域創生データサイエンスプログラム」のいずれかのプログラムを選んで専門性を深める。

同大学は今後、新しい学環を軸に、企業・自治体等との連携を強化し、多様なステークホルダーと価値を共創する大学の機能を確立したい考えだ。

地域未来共創学環の4年間の学びイメージ



*2023年8月現在

共愛学園前橋国際大学

キャンパス／群馬県前橋市 基本理念／共愛・共生の精神 学部／国際社会 学生数／1,229人

「共愛12の力」が網羅的に育つカリキュラムへ

共愛学園前橋国際大学はDP達成に向けた学修成果指標として「共愛12の力」を設定し、学修成果の可視化を進めてきた。2023年度に始動した新カリキュラムでは、学部共通科目の各科目群が12の力に対応。カリキュラムツリーに沿って学修を進め、12の力を網羅した成長を実現することが狙いだ。

カリキュラム改革の柱は、学部共通科目の充実・体系化だ。社会で活躍する人材になるためには、どの専門分野も共通の学士として共通で求められる力がある。そこで、「鬼に金棒(全学生共通の力+専門性)」をコンセプトに、新カリキュラムを設計した。

新しい学びは8つの科目群(右図)で構成される。学部共通科目で特徴的なのは「グローバル科目」と、そこに含まれる「Glocal Seminar」、そして「MIDA*科目」だ。グローバル科目には、海外で学ぶグローバル領域と、地域でのPBLを中心としたローカル領域があり、両領域からの単位修得を推奨している。同大学はこれまで学外での学びを推進してきたが、全学生が経験していたわけではなかった。新カリキュラムでは、グローバル科目に卒業要件として8単位(Glocal Seminarで年間4単位)を設定し、全員がオフキャンパスでの学びを経験するよう設計した。

Glocal Seminarは、データ分析と実地調査により地域課題の設定と解決を図る必修演習だ。この演習では他コースの学生と混合でクラスをつくり、協働した学びをめざす。MIDA科目は、数理やICT、AIなどについて学ぶ全学必修科目。Society5.0における課題解決を体験するために必要な数的処理能力、AIやデータを活用して仕事に向かう素養を育てる。

新カリキュラムの全体像

構成	1年次	2年次	3年次	4年次
多様な存在と共に生きていくための学び	共愛コア科目			
国際社会でのコミュニケーション力をつける	外国語科目			
社会に必要な計数能力を身につける	MIDA科目			
国内・国外で実践的に学ぶ	Glocal Seminar (PBL)		グローバル科目	
知識を活かして学ぶ4年間通した演習	基礎演習	専門演習		
自分の強みとなる専門性を身につける	コース専門科目			
自身の関心に基づいて学ぶ	セルフデザイン科目			
学びと将来を結びつける	キャリア科目		就職支援	

■学部共通科目 ■コース別科目

*Mathematics, Information and Communication Technology, Data Science, AIの頭文字

【図表1】教育改革と質保証を実質化するための方向性

1 主専攻・副専攻制の活用等を含む 文理横断・文理融合教育の推進

文理横断・文理融合教育の方法論

- 例えば、
 - ・「リベラルアーツ教育を中核に据えた学位プログラム」
 - ・「課題解決力等の涵養に重点を置いた学位プログラム」
 - ・「文理横断・文理融合的な学問分野に基づく学位プログラム」
 - ・一般教育・共通教育における一部科目の必修化や副専攻プログラムの開設等の取組 等
- 一定の型にはまるものではなく、各大学が自らの「強み」と「特色」を活かした質の高い教育を展開することを期待。

文理横断・文理融合教育の推進に向けた方向性

- 「教学マネジメント指針」を積極的に活用し学生の時間の有限性や学修意欲にも留意しながら、3つのポリシーに基づく体系的・組織的な学修者本位の教育を展開し、自律的な内部質保証の仕組みを機能させることが極めて重要。
- 文理横断・文理融合教育の推進に当たり、学位プログラムの機動的な実施、学部等連係課程制度の活用、教育研究体制の多様性と柔軟性の確保、レイトスペシャライゼーションの考え方に基づく取組等が有効。特に地方・小規模大学等では大学等連携推進法人の組成等による人的・物的リソースの共有化も有効。
- 国においては優れた取組への支援、普及・展開に引き続き取り組むことに加え、新たな基金を活用した機動的かつ継続的な支援の実施が重要。

2 「出口における質保証」の 充実・強化

- 体系化・構造化された教育課程の学生へのわかりやすい提示、GPA活用やキャップ制等の実質化、授業科目の精選・統合等の教学マネジメントの改善が重要。修得単位数以外の卒業要件の規定等も考えられる。
- 卒業論文・卒業研究やゼミナール教育の充実が有効。その際、ゼミ等の学修目標や評価基準の明確化、低年次からの系統的な教育課程、地域・企業との連携等、組織的な取組が求められる。
- 大学のミッションや学問分野は多様であり、ゼミ等が全ての学位プログラムに適しているものではないが、DPに定める資質・能力を総合的・客観的に評価する必修科目を高年次に設けることは効果的。
- 学生へのきめ細かな教育・支援を可能とする指導体制の構築は重要だが、ST比を質保証における遵守すべき基準として規定することについては課題も多く、更なる研究・知見の蓄積を要する課題。ST比やクラスサイズ等も含めた教育研究体制に係る積極的な情報公表が重要。
- 大学に「出口における質保証」を求める産業界は、採用選考活動で学修成果等を重視していることの発信、就職・採用活動における学修への配慮、キャリア教育やゼミナール教育等への積極的な貢献等が求められる。
- 質保証における国際的な連携・相互承認の急拡大を踏まえた対応も必要(海外の質保証機関等との連携等)。

*中教審「学修者本位の大学教育の実現に向けた今後の振興方策について」(審議まとめ)(2023年2月)抜粋

3 ポリシー見直しも含め 本質的な教育改革を

2018年の「グランドデザイン答申」では、予測不可能な時代を生きる人材像が掲げられ、そのための教育の転換が示された。しかし、中教審が2023年2月に示した「学修者本位の大学教育の実現に向けた今後の振興方策について」(審議まとめ)では、「意欲的な教育改革等に真剣に取り組む大学と改善の努力が不十分な大学とに二極化している」「教学の改善・改革に係る取組が形式的・表層的なレベルに留まっている」との指摘がなされた。

審議まとめでは「主専攻・副専攻制の活用等を含む文理横断・文理融合教育の推進」「出口における質保証」の充実・強化」「学生保護の仕組みの整備」が論点となっている。今号のテーマに関連が深い文理横断・文理融合教育の推進に対しては、組織の改組や融合領域の創設をはじめ、時代の要請に応じた学位プログラムの機動的な実施、学内リソースの有効活

用のための学部等連係課程制度の活用、教育研究体制の多様性と柔軟性の確保、学修者の可能性を広げるレイトスペシャライゼーションが有効だとしている。自学の教育改革の検討材料にしたい。

P.28からの大学事例に加え、次ページから6大学の教育改革例を紹介する。これらの大学では、社会課題解決に向けた人材育成を目的に、教育を見直している。茨城大学は地域の課題解決に資する人材育成をめざし、3学部が連係して新たな学環を新設する。京都産業大学は正課で起業家を育成するアントレプレナーシップ教育の全学展開を始めた。芝浦工業大学は複雑化する課題の解決のため分野横断的に学べるよう、学科制から課程制へと移行する。DPの達成にこだわり、共通科目の充実・体系化を図った共愛学園前橋国際大学、神田外語大学は、社会変化の中で学生が身に付けるべき力を基に、3ポリシーから見直した。計画的・継続的に教育プログラムの見直しを図る崇城大学の取り組みも注目に値するだろう。

*文科省「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」

トピック

2

教育改革の現状と課題

学修者本位の教育の実現に向け、教学改善をどう図るべきか? 参考となる考え方、事例を紹介する。

文/本間学

京都産業大学

キャンパス/京都市京都市 建学の精神/将来の社会を担って立つ人材の育成
 学部/経済、経営、法、現代社会、国際関係、外国語、文化、理、情報理工、生命科学
 大学院/経済学、マネジメント、法学、現代社会学、外国語学、理学、先端情報学、生命科学、経済学(通信教育課程)、
 京都文化学(通信教育課程) 学生数/15,530人

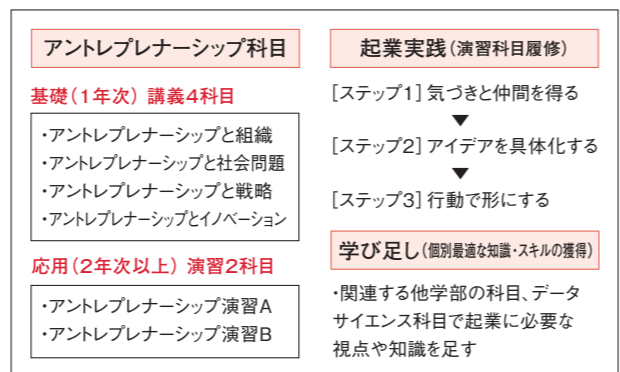
文理融合の正課「アントレプレナー育成プログラム」を始動

京都産業大学は、10学部の学生がワンキャンパスに集結する特徴を生かし、2023年度から「アントレプレナー育成プログラム」を、文理融合の正課教育として始動させた。これは、社会のさまざまな面でパラダイムシフトが起きる中、建学の精神である「将来の社会を担って立つ人材の育成」を具現化するものだ。

プログラムの柱は3つある。1つ目の柱は、全学生が履修可能な「アントレプレナーシップ科目」の設置だ。4つの講義、2つの演習科目で構成され、全10学部29人の教員が、身近な課題からビジネス 이슈、AIや宇宙ビジネスなど、文理融合の学びを提供する。2つ目の柱は「起業実践」。学生は学年や学部を超えた仲間と共に演習科目に取り組み、起業に必要な考えやプロセスを修得する。この科目は起業指導の実績がある4人の教員が担当する。3つ目の柱は「学び足し」だ。本プログラムで実践を重ねる中で、知識・スキルの補充の必要性を学生が感じた場合、関連する他学部の科目やデータサイエンス系の科目を履修できる。加えて、目まぐるしく変化するビジネスのスピードに対応するために必要なスキルの習得には、オンライン講座*を活用することにした。

起業家育成のための環境も整備。京都市内に構える学外拠点「町家 学びテラス・西陣」に加え、キャンパス内に起業活動の拠点となる施設を新たに設置した。起業支援の充実に向けて、産業界や海外との連携も進めていく。また、ビジネスコンテスト等を実施し、優れた計画には起業資金を提供するという。

アントレプレナー育成プログラムの3つの柱



* [Udemy Business]

崇城大学

キャンパス/熊本県熊本市 教育理念/建学の精神「体・徳・智」の下、豊かな人間性と「いのちとくらし」に関する高度な専門性を有する人材を育成し、人物および技能の両面を通して、「いのちとくらし」の各専門分野における革新と貢献をめざします。
 学部/工、情報、生物生命、芸術、薬 大学院/工学、芸術、薬学 学生数/3,730人

中長期計画に基づき段階的に教育改革を推進中

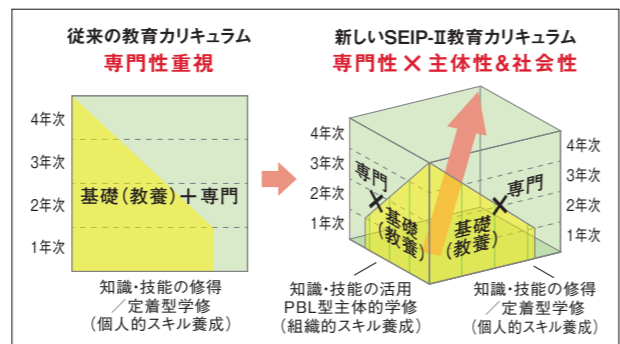
崇城大学は中長期計画に基づき、2019年より独自の教育プログラム「SOJO教育刷新プログラム(SEIP*-II)」を推進している。第1期(2019~2022年度)は、学生が日常的に学修する習慣付けを促した。第2期(2023~2026年度)は、学生が修得した知識・技能を活用し、発信できる力、主体的に社会に還元できる力の育成を目標としている。

SEIP-IIの具体的な施策は3つある。1つ目は「基礎教育と専門教育の連動」だ。学生が1・2年次で学ぶ数理基礎科目と、各学科の専門科目とをスムーズに接続できるよう、指導・学修支援体制を整えた。2つ目は「SOJOプロジェクト教育の全学展開」。学生は、将来の就職先となる産業界との接続を意識しながら、知識を活用した問題解決型のチーム学修に取り組む。3つ目は「SOJOポートフォリオシステムの構築」だ。学生は入学時の目標、1週間単位の活動と社会の動き、受講科目ごとの到達度、学期ごとの学修・生活等の振り返り等を記録。「気づき→努力→自信→意欲」のサイクルを回す習慣を身に付けさせて、学修意欲の向上を図る。

同大学の教員評価制度は、教員が教育活動調書の教育目

標の中に、大学の教育改革との関連を記載するしくみで、これによって各教員に改革の趣旨が浸透しやすくなっている。さらに、2022年度に「教学マネジメントWG」を立ち上げ、DPを起点とした教育の質の保証に向けて、アセスメントプランを策定している。学修者を主体とする教育への転換を図るべく、SEIP-IIをさらに発展的に展開していく考えだ。

SEIP-II教育カリキュラムの特徴



*Sojo Educational Innovation Project

神田外語大学

キャンパス/千葉県千葉市 建学理念/言葉は世界をつなぐ平和の礎
 学部/外国語、グローバル・リベラルアーツ 大学院/言語科学 学生数/4,246人

3ポリシーを抜本的に見直し、教育課程を再編

神田外語大学は、複雑化する国際社会の課題に対応できる人材を育成するため、2023年度、外国語学部の3ポリシーを抜本的に見直すとともに、カリキュラムを改編した。語学&αのダブルメジャー制度と併せて、グローバル教養の全てを4年間で徹底して学ぶ点が、新カリキュラムの大きなポイントだ。課題解決には世界中の人との協働が必要なため、DPにおいて地域言語の到達目標を明示。英語の比率も上げ、英語24~45単位：地域言語30~34単位とし、全専攻で英語を共通言語として深く学ぶ体制にした。

導入科目・教養科目も拡充した。1年次からの共通基盤教育に「アカデミック・ライティング」「クリティカル・リーディング」「デジタル・シチズンシップ」「数的思考法(データサイエンス初歩)」「キャリアデザイン」の5領域を加え、4年間の学びを効果的に機能させるための基礎を必修で学ぶ体系にした。2年次以降は学科・専攻別に専門コース制を導入、語学力を効果的に生かすための「プラスαとなるグローバル教養」を深掘りする。

3年次からは「学科横断型のゼミ」を必修化。2年間かけて自身の専門研究領域を確立する。

同大学によると、改革を実現できたポイントは「学長、副学長、

学長補佐を中心とした責任体制の明確化と、作業に関わる組織の構築」「具体的なゴール設定と、スケジュールの可視化」「作業部会長を中心とした、教員と職員との密度の濃いコミュニケーション」にあるという。今後は3ポリシーを起点にPDCAサイクルを機能させ、内部質保証のための検証を随時実施する。

項目立てした新ディプロマ・ポリシー

新ディプロマ・ポリシー	科目群
[DP1] より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力と、多様な学問領域にわたる幅広い教養	基盤教育科目 教養科目 選択外国語
[DP2] 高度な言語運用能力 専攻言語の「読む・聞く・話す(やり取り/発表)・書く」 検定試験・CEFERの到達目標を設定	外国語科目 英語 地域言語
[DP3] 専攻言語及び同言語圏の様々な事柄に関する知識と理解 [DP7] 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢	研究科目 学科・専攻指定 他
[DP4] 多文化共生社会に求められるコミュニケーション能力 [DP5] 論理的かつ批判的な思考力 [DP6] 社会的な課題の発見と解決に貢献する力	卒業研究 卒業研究 卒業研究

芝浦工業大学

キャンパス/東京都江東区、埼玉県さいたま市 建学の精神/社会に学び、社会に貢献する技術者の育成
 学部/工、システム理工、デザイン工、建築 大学院/理工学 学生数/9,467人

分野横断型の教育をめざし、工学部を課程制へ

芝浦工業大学工学部は、2024年に学科制から課程制に移行する。従来の9学科を5課程9コースに再編し、分野横断型カリキュラムの導入と、研究を重視した実践的教育により、複数の分野の知見を横断的に用いて問題解決ができる人材を育成する。

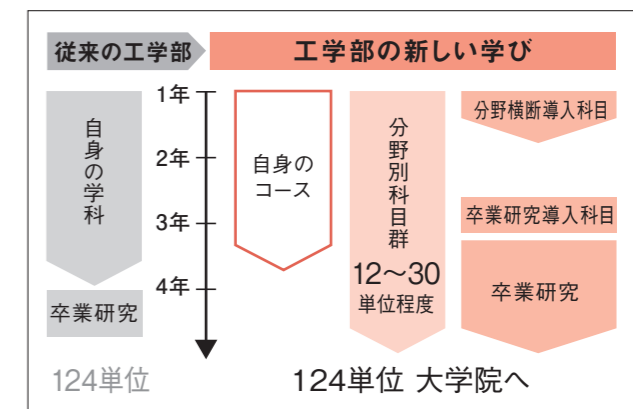
従来の学科制では、卒業に必要な単位は原則、全て自学科の科目から修得する必要があったが、課程制では「分野別科目群*」というしくみにより、他コースの専門科目からも一定数の単位(12~30単位程度)が修得できるようになる。学生は自コースの専門性を身に付けながら、自らがめざす将来像に沿った柔軟な科目選択が可能だ。また、研究室への所属時期を4年次から3年次に変更した。2年間かけてじっくり卒業研究に取り組めるのに加え、研究と授業の並行により、研究テーマに合わせた履修科目の選択や、授業で学んだ内容をすぐに研究に生かすことができるようになる。

新たな学びのシステムは、理想を追い求めるあまり机上の空論で終わらないよう、従来の工学教育分野と現実社会の産業形態とのバランスを考慮しながら設計された。

高校生に対して課程制移行の周知を図るため、専用サイトを

立ち上げた。動画コンテンツを充実させ、学生と協働したSNSでの発信も行。柔軟な組織変更に対応しやすい課程制の特徴を生かし、今後も、社会の変化に合わせた継続的な教育改革を推進していくという。

課程制移行後の学びの流れ



*各コースの専門科目をテーマでグループ化したもので、工学部全体で19の科目群がある